

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成30年8月解析分)

1 今月のトピックス

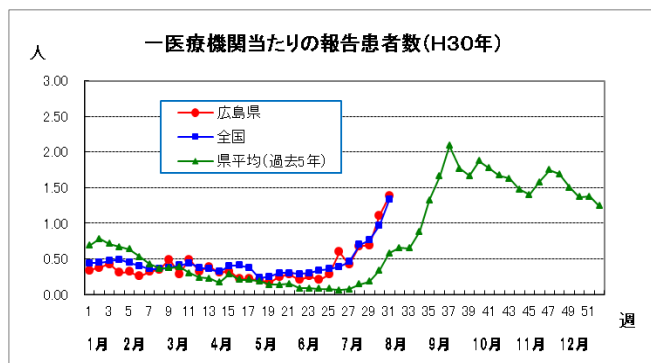
(1) RSウイルス感染症について —乳幼児の感染は要注意！！—

厚生労働省 RSウイルス [検索](#)

RSウイルス感染症の流行が、九州地方を中心に、例年より早く始まっています。

広島県でも、定点医療機関からの報告患者数が、6月97件から7月305件と急増しています。

RSウイルス感染症は、かぜに似た症状で、多くの場合軽症で治りますが、感染力が強く、1歳未満の乳幼児や、先天性疾患、慢性肺疾患など基礎疾患を持つ小児の場合は、重症化の恐れがあるため注意が必要です。



●症状

- RSウイルスを原因とする感染症で、2～8日（通常4～6日）の潜伏期の後、発熱、鼻汁などの症状が数日続きます。
- 重くなる場合には、咳の悪化、喘鳴、呼吸困難などの症状が出現し、場合により、細気管支炎、肺炎へと進展します。

●感染経路

- 咳やくしゃみによる「飛沫感染」や、ウイルスの付着した手指やおもちゃなどの物品を触ったり、なめたりすることによる「接触感染」です。

●予防方法など

- 手洗いの徹底（石けん、消毒用アルコール及び塩素系消毒薬が有効）が予防の基本となります。
- 咳などの呼吸器症状がある場合は、マスクを付ける、口と鼻をティッシュペーパーなどで覆うなど、周りの方への感染防止に心がけてください。
- ワクチンや特効薬はありません。治療は、咳止め薬や去痰薬の投与、適切な水分補給などの対処療法が主体となります。
- かぜの症状が現れたら、症状では他の感染症と区別が付きにくいので、早めに医師の診察を受けましょう！！

(2) 日本紅斑熱について

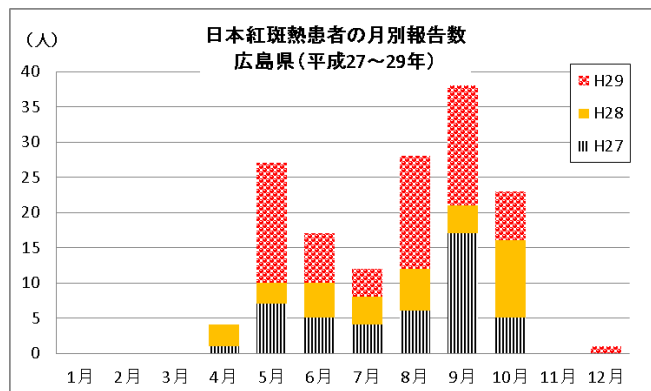
日本紅斑熱 広島県 [検索](#)

広島県内では、例年、8月から10月を中心に、マダニ類による感染症の一つである「日本紅斑熱」の患者が増加します。過去3年においては、この3か月の合計患者数が、1年間に発病する患者数の約6割を占めていました。

農作業やレジャーなどで、草むらや藪などマダニが多く生息する場所で活動する際には、マダニに咬まれないよう、長袖、長ズボン、帽子、手袋などを着用し、肌の露出を少なくしましょう。

また、虫よけ剤の使用も、補助的な効果があります。

日本紅斑熱の症状、治療、予防などの詳細は、広島県のホームページを御覧ください。



2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成30年7月分(平成30年7月2日～平成30年8月5日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	39	0.07	0.01	↑	10	ヘルパンギーナ	660	1.85	2.06	↗
2	RSウイルス感染症	305	0.86	0.26	↑	11	流行性耳下腺炎	49	0.14	0.62	→
3	咽頭結膜熱	202	0.57	0.77	↘	12	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.02	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	557	1.56	1.82	↘	13	流行性角結膜炎	94	0.99	0.94	↘
5	感染性胃腸炎	1,270	3.57	4.38	↘	14	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
6	水痘	78	0.22	0.49	↘	15	無菌性髄膜炎	3	0.03	0.05	
7	手足口病	690	1.94	4.67	↗	16	マイコプラズマ肺炎	15	0.14	0.18	↑
8	伝染性紅斑	4	0.01	0.20		17	クラミジア肺炎	0	0.00	0.01	
9	突発性発しん	117	0.33	0.50	↘	18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	0.02	—	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成30年7月分(7月1日～7月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	68	2.96	2.24	↗	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	61	2.90	4.04	↗
20	性器ヘルペスウイルス感染症	33	1.43	0.83	↗	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	8	0.38	0.50	
21	尖圭コンジローマ	11	0.48	0.72	↘	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	2	0.10	0.11	
22	淋菌感染症	15	0.65	0.90	↗						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

発生記号(前月と比較)

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)	急増疾患	インフルエンザ (0.02 → 0.07)	RSウイルス感染症 (0.34 → 0.86)	マイコプラズマ肺炎 (0.04 → 0.14)
	急減疾患	なし		
	急増減	↑	↓	1:2以上の増減
	増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減	
横ばい	→		ほとんど増減なし	

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患、月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～11	12, 13	19～22	14～18, 23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況 【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	42	結核(42) [西部保健所(3), 西部東保健所(7), 東部保健所(10), 北部保健所(1), 広島市保健所(12), 福山市保健所(9)]
三類	6	腸管出血性大腸菌感染症(6) [西部保健所(1), 広島市保健所(2), 福山市保健所(3)]
四類	30	E型肝炎(2) [広島市保健所(1), 呉市保健所(1)], つつが虫病(1) [西部東保健所(1)], レジオネラ症(20) [西部保健所(3), 西部東保健所(5), 東部保健所(1), 広島市保健所(7), 呉市保健所(1), 福山市保健所(3)], 重症熱性血小板減少症候群(3) [東部保健所(2), 福山市保健所(1)], 日本紅斑熱(4) [東部保健所(1), 呉市保健所(2), 福山市保健所(1)]
五類	70	アメーバ赤痢(1) [西部保健所(1)], カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(8) [西部保健所(2), 東部保健所(1), 広島市保健所(2)], 呉市保健所(2), 福山市保健所(1)], クロイツフェルト・ヤコブ病(1) [福山市保健所(1)], 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(2) [広島市保健所(1), 呉市保健所(1)], 侵襲性肺炎球菌感染症(2) [広島市保健所(1), 福山市保健所(1)], 播種性クリプトコックス症(1) [福山市保健所(1)], 破傷風(2) [西部保健所(1), 広島市保健所(1)], 梅毒(19) [西部東保健所(1), 広島市保健所(13), 呉市保健所(4), 福山市保健所(1)], 百日咳(34) [西部保健所(2), 西部東保健所(21), 広島市保健所(8), 呉市保健所(1), 福山市保健所(2)]